

～ TurningPoint を活用したキャリア教育セミナー ～

実施時期： 2016 年 3 月

実施場所： 埼玉県内の学校施設

対象： 12～18歳の男子生徒（18名）

セミナータイトル：「バイトに就こう、バイトで活躍しよう」

講師： 認定 NPO 法人 育て上げネット 山口紀子（キャリアコンサルタント）

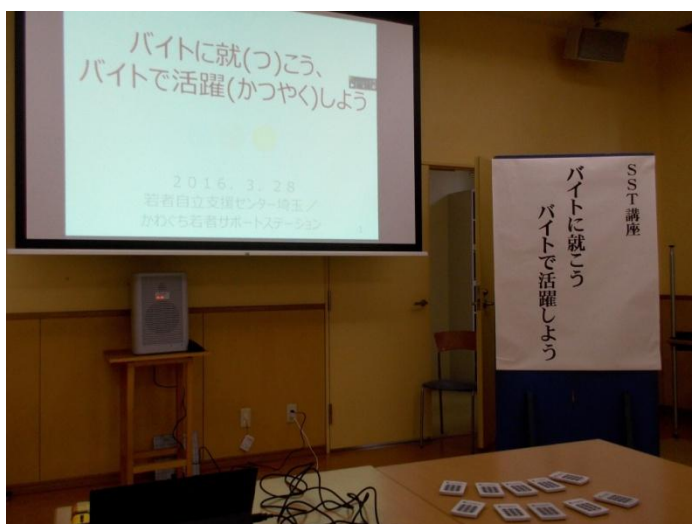
今回のセミナーは、埼玉県内のとある学校施設からの依頼で実施した。特殊な事情を抱えた 12～18歳の生徒たちが学んでいる学校で、一般的な小中学生に比べ、卒業後すぐに働くことになる生徒が多い。具体的に言及できないが、各々が抱えた「事情」は、すんなりと社会に出ることを阻害する要因となり得るものだ。家庭でのサポートが期待できない子も多く、高校進学を果たしても、通いきれず中途退学してしまう生徒も、また多いと言う。

こうした背景から、先生方は「在学中に、少しでも働くことや仕事探しに役立つ情報を伝えておきたい」という強い願いをもっており、今回のセミナー企画につながった。

このレポートは、3回にわたって行った『SST講座』（ソーシャルスキルトレーニング：対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能訓練）のうち、3回目のレポートである。

セミナーの企画にあたり、「今すぐ使わない“将来に役立つ”話を、年若い生徒たちに飽きずに聞いてもらえるか」という点が懸念された。話を聞くだけでなく、楽しみながら参加できるワークが必須であることから、TurningPoint の活用を決めた。自己表現が照れくさい年頃の男子生徒から、確実にリアクションをとる手段としても期待した。

SST講座 3回目の内容は、「就職」よりも身近で、高校在学中から始める可能性も高い「アルバイトに就く」ことにフォーカスした。



生徒数 18 名に対し実施会場がやや広すぎたため、会場づくりにも気を配った。テーブルを撤去してイスだけを並べ、講師との距離を縮める工夫をした。

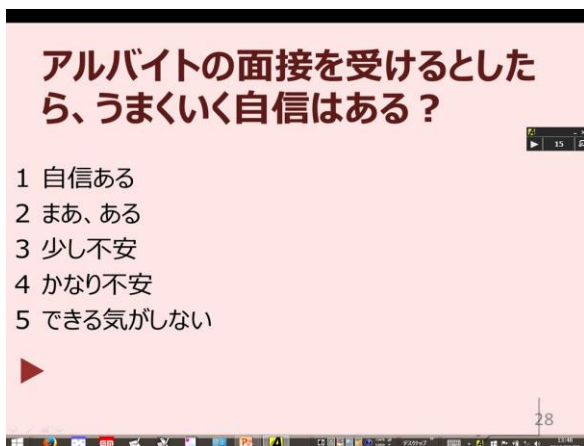
生徒たちが会場入りし、講師の自己紹介が終わると、さっそくクリッカーを配布。アイスブレイクとして、「UFOを見たことがありますか」などの質問に答えてもらった。（ちなみに UFO 目撃

者は 18 名中 6 名だった）

本題の冒頭で、「将来アルバイトをしてみたい」の問いに「はい/いいえ」で答えてもらったところ、78.6%が「はい」と答え、関心の高さが示された。

講座の前半は、『バイトの面接でこんなこと聞かれたらどう答える？』をクイズ形式で出題し、選択肢の中からクリックカーで選んで回答してもらった。正答率は72～82%といずれも好成績。将来が楽しみな生徒たちだった。

クイズコーナーの前後で、『アルバイトの面接を受けるとしたら、うまくいく自信はある？』という同じ質問に回答してもらった。



クイズ前は、「1 自信がある」が16.7%、「3 少し不安」が33.3%だった。

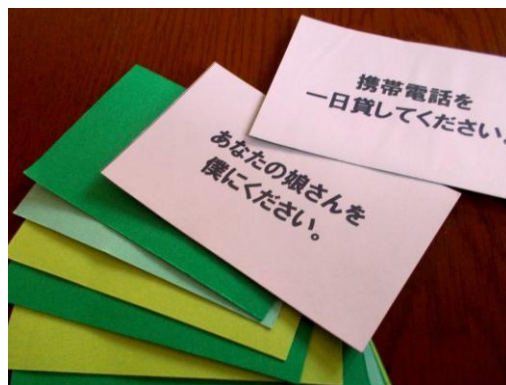
クイズを行った後に再び同じ質問をすると、「1 自信がある」が60%、「3 少し不安」が13.3%となった。

クイズに正解できたり、正解を知ったことで、不安が解消されたことがうかがえる。

休憩を挟んでセミナー後半は、クリックカーを回収して、「頼みごとカード」と名付けたカードゲームを行った。4～5人ずつのグループにひとりずつ先生方も加わって丸くなり、トランプのババ抜きのようにカードをひく。カードの裏には、「子守唄を歌ってください」「エアコンをつけてもいいですか」など頼みごとが書いてある。カードをひいた人がその頼みごとを断っていくゲームである。

断ることが苦手なために、何でも引き受けて無理をしたり、断り方で角が立ち人間関係を悪化させるなど、「上手な断り方」を知らないために職場で苦勞する若者は多い。ゲームを通じて上手な断り方に慣れるのがねらいである。

生徒も先生も、無謀な頼みごとに次々とトンチの効いた断り方を披露し、笑いの絶えないワークとなった。



今回、ICT機器と紙のカードというデジタルとアナログのツールを組み合わせ、生徒を飽きさせることなく90分のセミナーを実施することができた。

学んだことの多くは、一旦は忘れられてしまうかもしれない。しかしこれから何年後か、社会に出て困ったとき、ふと思い起こされた今回のセミナーの内容が、生徒たちの助けになることを願ってやまない。

(機材協力：KEEPAD JAPAN 株式会社)

***認定特定非営利活動法人 育て上げネット** ～若者の「働く」と「働き続ける」を実現できる社会を目指す
***若者自立支援センター埼玉／かわぐち若者サポートステーション** ～15～39歳の就職に悩む若者を支援する